

Title	新規事業開発と技術イノベーション
Sub Title	
Author	今庄啓二(Imajiyou, Keiji) 矢作恒雄
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1993
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1993年度経営学 第980号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001993-0980">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001993-0980</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 今庄 啓二 主査 矢作 恒雄  
(鐘淵化学工業株式会社) 副査 古川 公成  
河野 宏和  
所属 矢作 恒雄 研究室

## 新規事業開発と技術イノベーション

本研究の目的は、A.新規事業開発のためのドライビングフォースとなる技術イノベーションとはどのようなものか？ B.技術イノベーションを効果的に引き起こすマネジメントとは何か？ C.技術イノベーションを有望な新規事業につなげるマネジメントとはどのようなものか？ を明らかにすることである。まず、過去の研究をもとに、本研究における「新規事業」、「技術イノベーション」、「技術イノベーションの程度」、「技術イノベーションの成功」、「事業の成功」という用語の定義を明確にした。さらに、技術イノベーションの類型化及び、技術イノベーションのマネジメントに関しての理論研究を行った。これらの結果をもとに、技術イノベーションのタイプ毎、或いは発明発見→技術イノベーション→事業化の各段階におけるマネジメントの仕組みを分析するために、技術イノベーションをベースにした新規事業についての事例研究を行った。その結果、A.技術イノベーションを成功させるマネジメントと、事業を成功させるマネジメントは異なり、それらをうまくつなげる仕組みを持つことで、新規事業を効率的に生みだし成功させることができる。B.技術イノベーションの4つのタイプにより、それぞれの技術イノベーションを適切にマネジメントする方法は異なる。C.新規事業につながる技術イノベーションの発生には、初期段階からの、強い意図を持った開発リーダーの存在、或いは市場サイド（技術サイドに対して）の個人の参画が重要である。という、当初の理論研究により設定した仮説が妥当であることが明らかとなった。